



「木の葉ブログ」(ビジネススキル強化お役立て情報)

「非言語コミュニケーション」の話題から(2015年4月30日投稿)

貴族の館には小型のクローゼットしかない！？ 10着のワードローブ(2)

ホームステイの初日、マダム・シックとムッシュ・シックは揃って出迎えてくれた。紅茶を飲み終わると、マダム・シックが声をかけてくれた。「夕食前にお部屋で一息つきたいでしょう。案内するわ」。この瞬間をわたしは心待ちにしていた。こんなに美しいアパートマンだから、わたしのお部屋もさぞかし……と期待が高まった。

お部屋はとても素敵だった。シングルベッドには緑のベルベットのカバーが掛けられ、天井まで届く大きな窓の両側には草花模様のカーテンが掛かり、窓からは絵のように美しい中庭を眺めることができた。勉強にちょうどいい大きさの机もあり、**小型のクローゼットもあった。**

え、ちょっと待って。小型のクローゼット？

それまでは何もかも順調だったのに、突然、頭が真っ白になりそうになった。思わず、荷物で膨れ上がった大型の2つのスーツケースに目をやった。

これがクローゼットなの？

クローゼットの扉を開くとハンガーがいくつか下がっているだけだった。わたしはどうとうパニックした。こんな狭いところに半年分の服を全部しまっておけというの？ うそみたいだけど、どう考えてもそうにちがいがなかった。やがてすぐにわかったのだが、**この家の人たちには、これくらいの小さな収納で十分だったのだ。**というのも、各自10着くらいのワードローブしか持っていなかったから。ムッシュ・シックも、マダム・シックも、息子さんの、持っている服はどれも上質なもののばかりだったけれど、**彼らは同じ服をしょっちゅう繰り返し着ていた。**

たとえば、マダム・シックの冬用のワードローブは、ウールのスカート3~4着に、カシミアのセーターが4枚、シルクのブラウスが3枚(パンツはめったに穿かなかった)。ムッシュ・シックのワードローブは、グレーのスーツ2着、紺のスーツ1着、セーター2~3枚、シャツが4枚、それにネクタイが2~3本。

最小限のワードローブで事足りる家庭は、パリではめずらしくなかった

悩んだあげく、他の家庭にホームステイしているアメリカ人の留学生にも訊いてみたところ、やはりみんなの部屋にも大きなクローゼットはなかった。ということはフランス人はクローゼットが狭いから10着のワードローブしか持っていないのだろうか？ それとも10着しか必要ないから、狭いクローゼットでも十分なのだろうか？

参考文献：『フランス人は10着しか服を持たない』(ジェニファー・L・スコット著/大和書房)